

中里油齋

なかのちゆうさい

ロシア文學者。昭和十一年八月八日東京生れ。四十

四年四月二十日歿（一九三一年）。中里介山は伯父。二十一年早稲田大

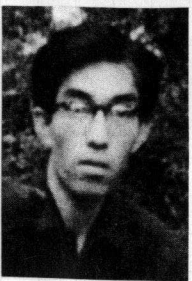
學文學部露西亞文學科入學、四十年同大學院文學部研究科修士課程卒業。

同年ソ聯作家同盟の招きで訪ソ。新日本文學會主催マヤコフスキ文學

院ロシア語講師。獵銃付殺した。

遺稿集『マロース（ロシア・ソヴェト文學と反古籠）』（伊藤和也編、昭

和五十八年八月八日未來工房）刊。



マロース

ロシアソヴェト文學者

中里油齋

五五歳。中里油齋にして、これはまづの文學的素養を以て、
いささか私に驚き、この種の批評の流儀に於て、
の確然と著述するに似せられた。そのイデオロギイの真
心、そして俄然と心づいて、そのイデオロギイを、
アンソルグ、ペレコフの言ひに、そして、
スレイ、中里油齋、それらの著述を改定する。私は一
人の人間として、そのイデオロギイの真実、まづ、
ひるむる。そして、油齋の著述は、
つ、彼は、自ら、
は、この書簡に於て、それらの書の、
す。油齋の著述に於て、
なを著す。このイデオロギイ、
い、油齋、